

5

自ら「出前放牧」を開始

いちがお畜産（大江良樹氏）（京都府京丹後市）【肉用牛一貫経営】



- 「出前放牧」で地域から喜ばれる
- 自給飼料生産に力を入れ、子牛生産費を低減
- 水稲作業受託の複合経営

1 地域の概要

京都府京丹後市は京都府北部、丹後半島に位置し、東西約35km、南北約30kmの広がりを持ち、面積は501.84.km²である。沿岸部は山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に指定され、内陸部には標高400～600mの山々が連なる。

気候は年間平均気温が14.6度、最高気温が35.1度、最低気温が-5度の日本海側気候となっている。

耕地面積3957haのうち、田が82.5%、畑が14.8%、樹園地が2.7%を占め、農業算出額76億円のうち米が46.0%、野菜が23.7%、畜産が7.6%となっている。

家畜の飼養頭数は、乳用牛483頭、肉用牛680頭（繁殖588頭、肥育92頭）、鶏7万6千羽となっており、京都府の肉用繁殖牛の41.2%を占める主産地となっている。



2 経営の概要

大江氏は、京丹後市丹後町で昭和56年から肉用牛経営を開始し、現在繁殖牛26頭と肥育牛8頭を飼養している。若手農業者の担い手組織である「白南風（しらばえ）クラブ」の中心メンバーとして水稲2.5haを受託作付けする肉用牛・水稲複合経営である。

自給飼料に力を入れ、トウモロコシ1.8ha、スーダングラス5haイタリアンライグラス0.9haを作付けし、平成10年からは放牧も経営に取り入れ、飼料費及び子牛生産費の低減に努めている。

経営概要

繁殖牛	26頭
肥育牛	8頭
水稲受託	2.5ha
飼料畑（受託含む）	7.7ha
放牧地（3カ所）	7.3ha



【大江氏】



【放牧場：耕作放棄地】

3 取組の経緯

購入飼料費の低減と飼養管理の省力化のため、平成10年から牛舎周辺の自己所有農地約2haで放牧を開始し、平成14年度からは矢畑地区の耕作放棄された農地（水田3.3ha）の地主約20人に、自ら出向いて話し合い、「出前放牧」

を実施している。また、獣害が著しいことから耕作放棄された畑地約2haにおいても「出前放牧」を実施している。最初は放牧による環境汚染の心配など地区の反対もあったが、今では景観が良くなったと、地元から喜ばれている。

また、地区内の水田約6.8haを借り受けて、トウモロコシやスーダングラス、イタリアンライグラスなど、飼料作物を栽培し、生産調整目標の達成に貢献するなど、地域の作業受託モデル農家として活躍している。

4 放牧の概要

放牧期間 5月中旬～10月下旬

放牧面積 7.3ha（3カ所）

放牧頭数 10～12頭（1カ所3～5頭、分娩2～3カ月前に収牧）

放牧形態 昼夜放牧

5 放牧の特徴

- 放牧地3カ所の内、2カ所は「出前放牧」で、3～5頭を妊娠鑑定が終われば出きるだけ早く放牧に出し、分娩2～3カ月前に収牧している。
- 「出前放牧」地には飲水施設を設置していないため、2日に一度、牛の看視をかねて飲料水を運んでいる。



【放牧地：野草地】



【放牧風景】

6 放牧の効果

- 夏場は飼養頭数の1/3は放牧に出すため、飼養管理が省力化でき、水稻受託作業や飼料作物生産に労力を割くことが出来る。
- 自給飼料作物の生産性が向上し、購入飼料費の削減による子牛生産コストの低減、繁殖性の向上等につながっている。
- 耕作放棄地の省力管理の効果が地域でも実感され喜ばれており、出前放牧地区拡大の可能性も生まれている。

執筆協力・問い合わせ先
京都府農林水産部畜産課経営係
TEL: 075-414-4981